

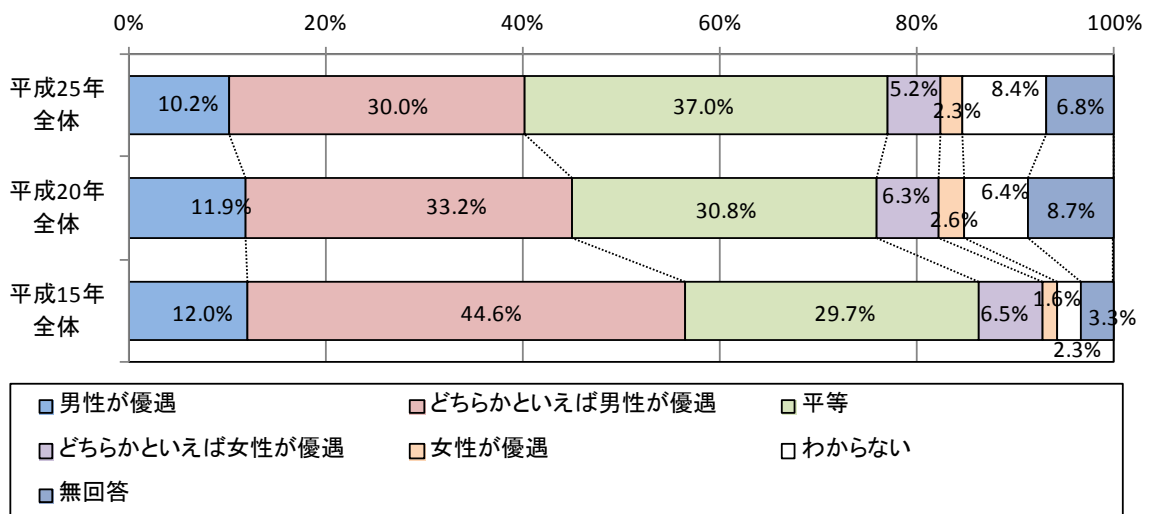
## ■ 男女共同参画

### 【設問18】 男女の地位の平等がどの程度実現されていると思いますか？

#### 《家庭の中では》

「男性が優遇」(10.2%)「どちらかといえば男性が優遇」(30.0%)を合わせた割合が 40.2%で「どちらかといえば女性が優遇」(5.2%)「女性が優遇」(2.3%)を合わせた割合の7.5%を32.7ポイント上回っています。

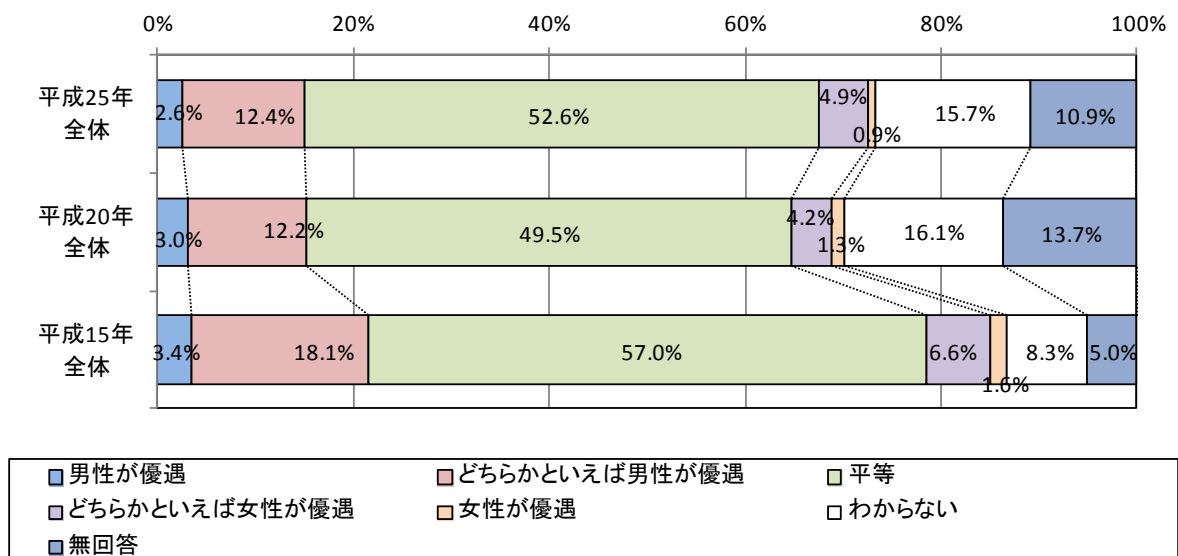
前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の45.1%から 4.9ポイント下回っています。



#### 《教育の場では》

「男性が優遇」(2.6%)「どちらかといえば男性が優遇」(12.4%)を合わせた割合は15.0%で「どちらかといえば女性が優遇」(4.9%)「女性が優遇」(0.9%)を合わせた割合の5.8%を9.2ポイント上回っています。

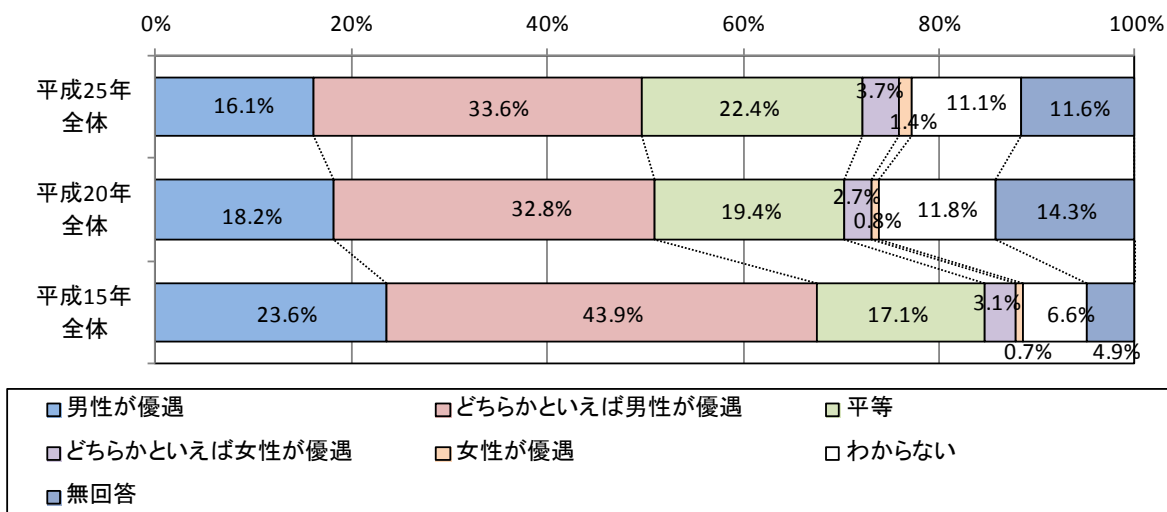
前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の15.2%から0.2ポイント下がっています。



### 《職場では》

「男性が優遇」(16.1%)「どちらかといえば男性が優遇」(33.6%)を合わせた割合が 49.7%で「どちらかといえば女性が優遇」(3.7%)「女性が優遇」(1.4%)を合わせた割合の5.1%を44.6ポイント上回っています。

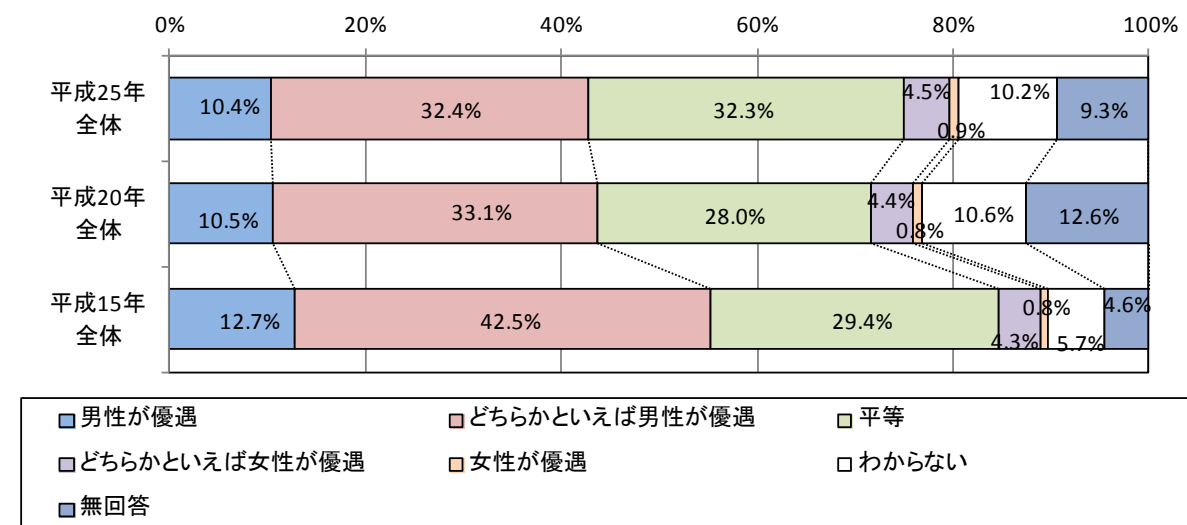
前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の51.0%から1.3ポイント下回っています。



### 《地域社会では》

「男性が優遇」(10.4%)「どちらかといえば男性が優遇」(32.4%)を合わせた割合が 42.8%で「どちらかといえば女性が優遇」(4.5%)「女性が優遇」(0.9%)を合わせた割合の5.4%を37.4ポイント上回っています。

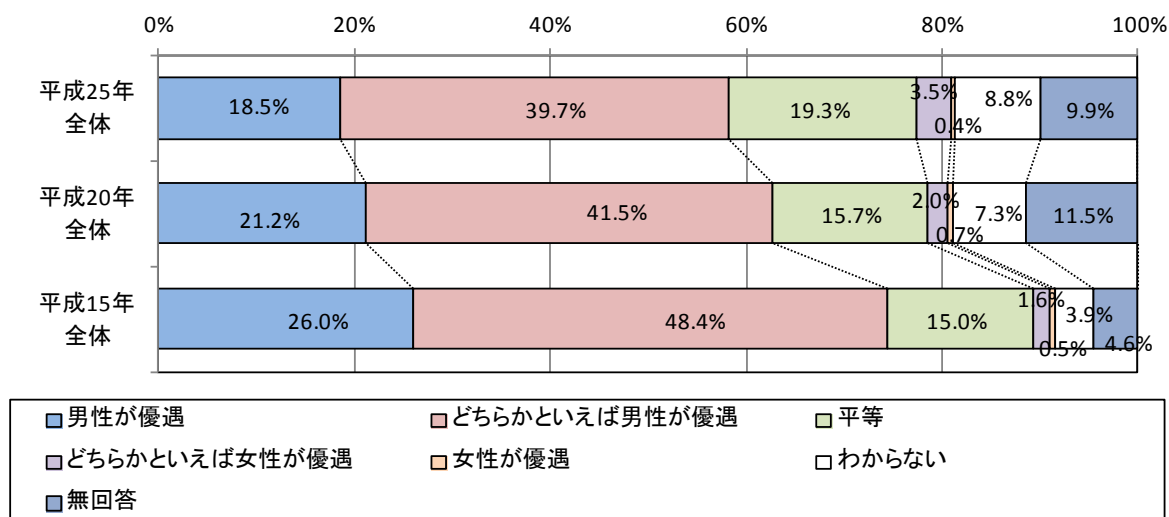
前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の43.6%から 0.8ポイント下回っています。



### 《社会通念やしきたりでは》

「男性が優遇」(18.5%)「どちらかといえば男性が優遇」(39.7%)を合わせた割合が 58.2%で「どちらかといえば女性が優遇」(3.5%)「女性が優遇」(0.4%)を合わせた割合の3.9%を54.3ポイント上回っています。

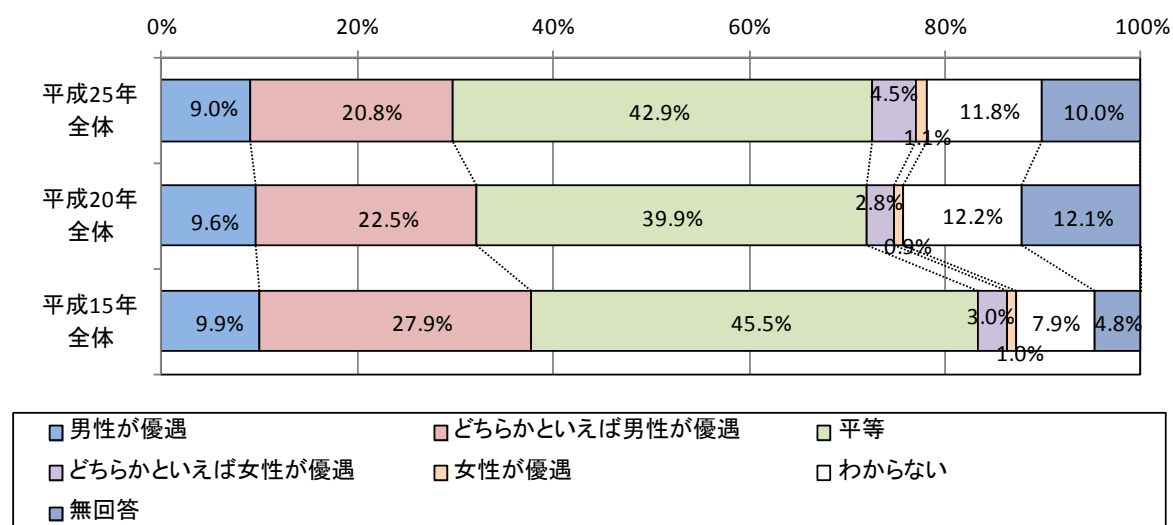
前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の62.7%から4.5ポイント下回っています。



### 《法律や制度では》

「男性が優遇」(9.0%)「どちらかといえば男性が優遇」(20.8%)を合わせた割合が 29.8%で「どちらかといえば女性が優遇」(4.5%)「女性が優遇」(1.1%)を合わせた割合の5.6%を24.2ポイント上回っています。

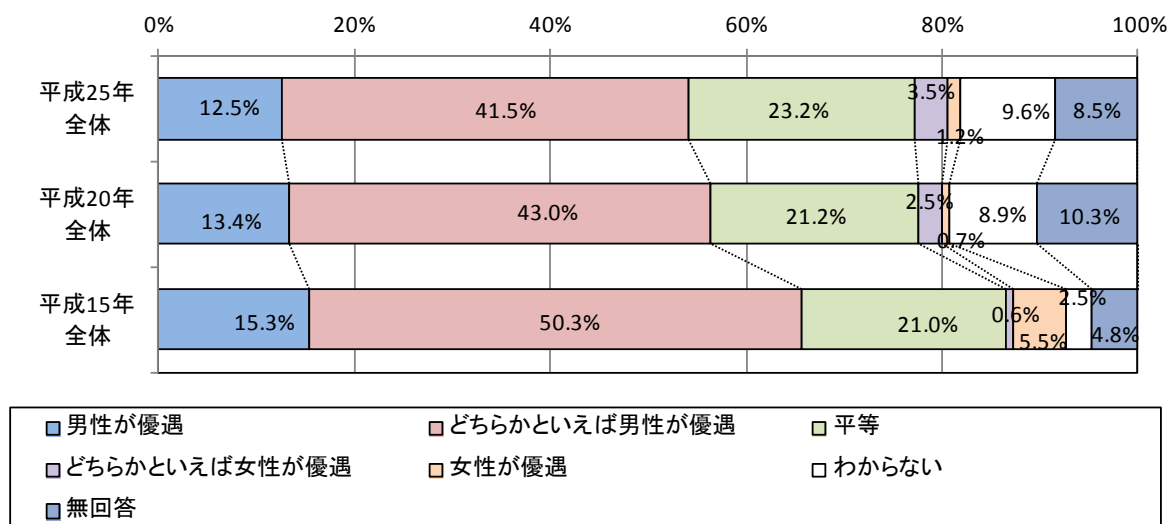
前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の32.1%から 2.3ポイント下回っています。



《社会全体では》

「男性が優遇」(12.5%)「どちらかといえば男性が優遇」(41.5%)を合わせた割合が 54.0%で「どちらかといえば女性が優遇」(3.5%)「女性が優遇」(1.2%)を合わせた割合の4.7%を49.3ポイント上回っています。

前回調査(平成20年)との比較では「男性が優遇」「どちらかといえば男性が優遇」を合わせた割合の56.4%から2.4ポイント下回っています。



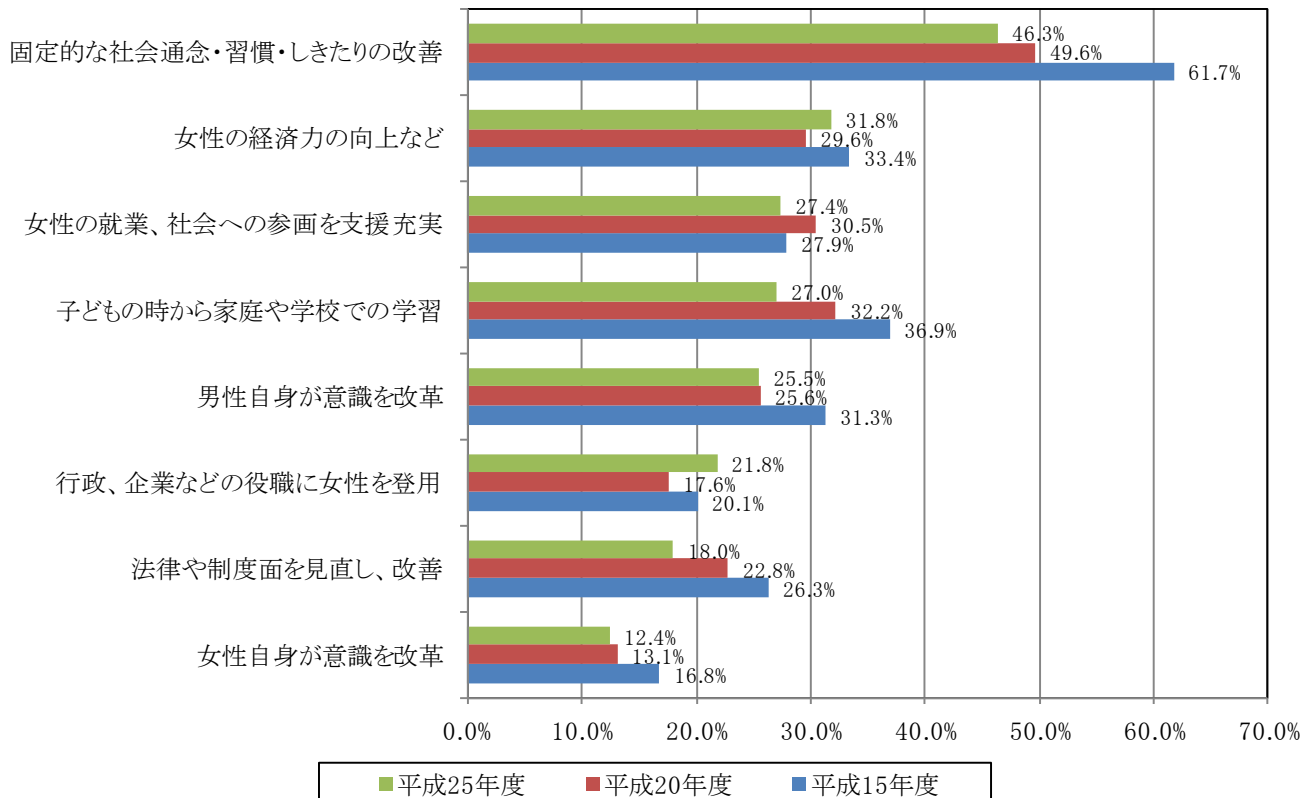
**【設問19】 今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるためには、何が重要だと思いますか？**

「男女をとりまく様々な偏見や固定的な社会通念・習慣・しきたりの改善」を選択した人の割合(46.3%)が最も多く、次いで「女性の経済力の向上や知識、技術の習得など、女性力の向上」(31.8%)「女性の就業、社会への参画を支援する施設やサービスの充実」(27.4%)となっています。

項目	割合
男女をとりまく様々な偏見や固定的な社会通念・習慣・しきたりの改善	46.3%
女性の経済力の向上や知識、技術の習得など、女性力の向上	31.8%
女性の就業、社会への参画を支援する施設やサービスの充実	27.4%
子どもの時から家庭や学校での男女平等の学習	27.0%
男性自身が男女の平等や共同参画について意識を改革	25.5%
行政、企業などの役職に一定の割合で女性を登用	21.8%
法律や制度面を見直し、差別につながるものを改善	18.0%
女性自身が男女の平等や共同参画について意識を改革	12.4%
特になし、わからない	13.2%
無回答	6.0%
対象者(人)	1,095人

※複数選択可能で、割合は各項目の選択者数を対象者数で除したものです。

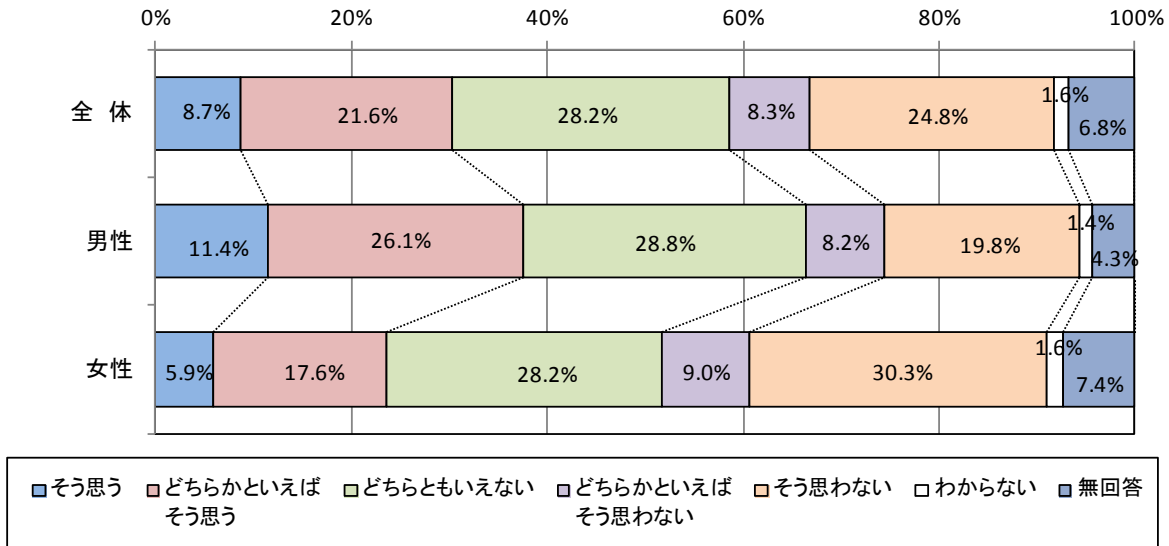
参考：今回調査と平成15、20年度調査との比較



【設問20】男女の生き方や家庭生活などに関する考え方について、どのように思いますか？

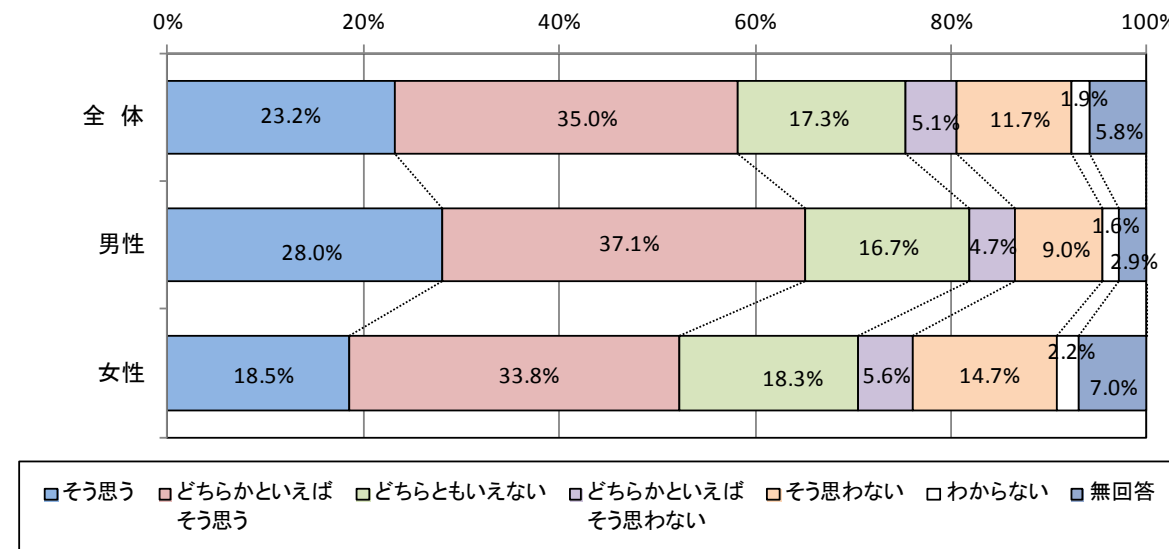
《「男は仕事」「女は家庭」を中心にする方がよい》

「そう思う」(8.7%)「どちらかといえばそう思う」(21.6%)を合わせた割合が 30.3%で「どちらかといえばそう思わない」(8.3%)「そう思わない」(24.8%)を合わせた割合の33.1%を 2.8ポイント下回っています。



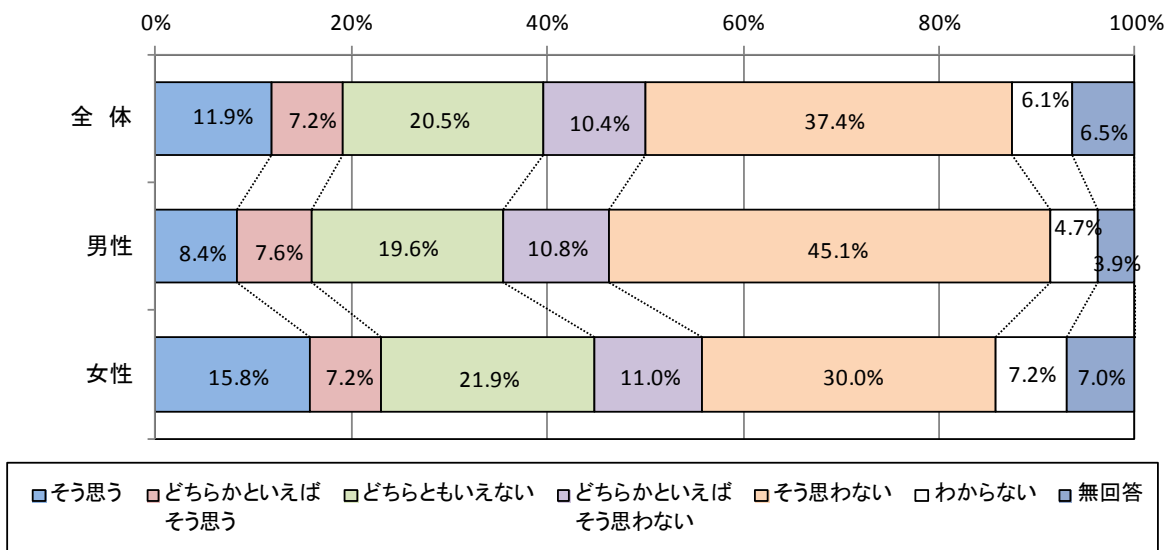
《「男の子は男らしく」「女の子は女らしく」しつけた方がよい》

「そう思う」(23.2%)「どちらかといえばそう思う」(35.0%)を合わせた割合が 58.2%で「どちらかといえばそう思わない」(5.1%)「そう思わない」(11.7%)を合わせた割合の16.8%を 41.4ポイント上回っています。



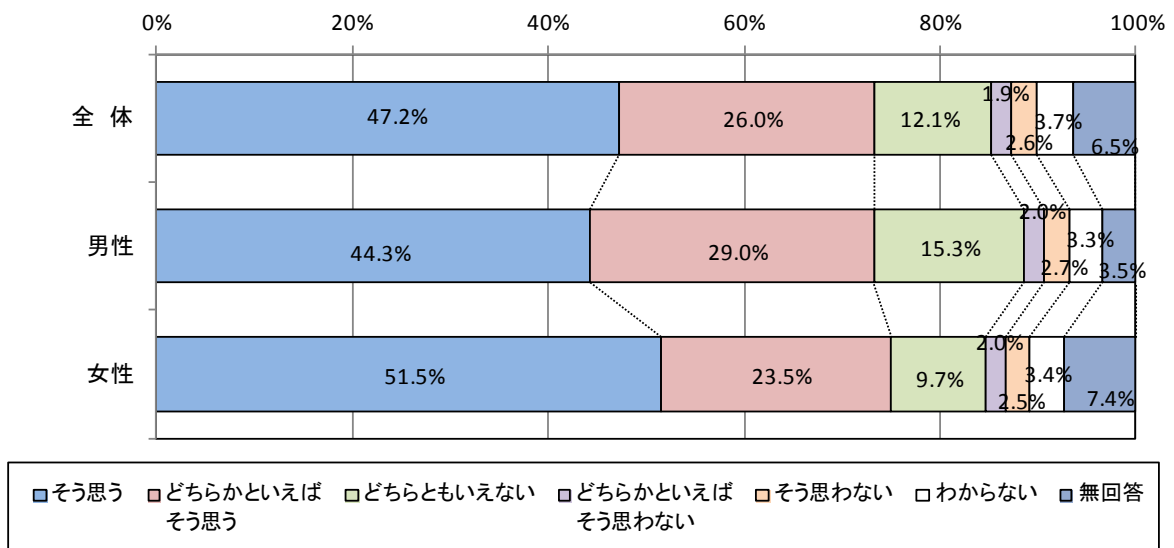
### 《夫婦は別々の姓を名乗っても構わない》

「そう思う」(11.9%)「どちらかといえばそう思う」(7.2%)を合わせた割合が 19.1%で「どちらかといえばそう思わない」(10.4%)「そう思わない」(37.4%)を合わせた割合の47.8%を 28.7ポイント下回っています。



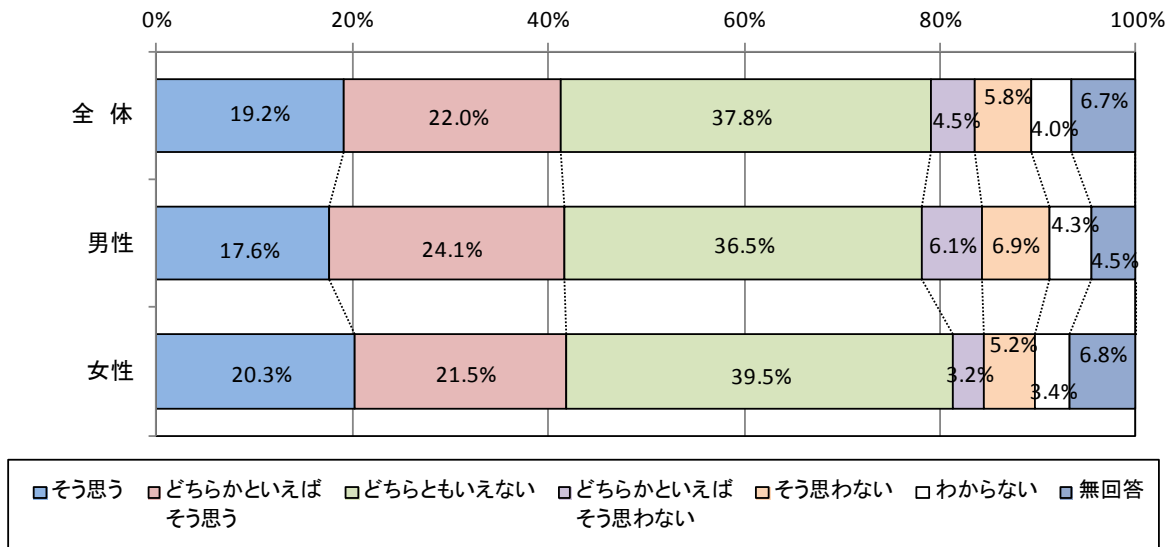
### 《人にはそれぞれ向き不向きがある。男性か女性かによって生き方を決めつけない方がよい》

「そう思う」(47.2%)「どちらかといえばそう思う」(26.0%)を合わせた割合が 73.2%で「どちらかといえばそう思わない」(1.9%)「そう思わない」(2.6%)を合わせた割合の4.5%を 68.7ポイント上回っています。



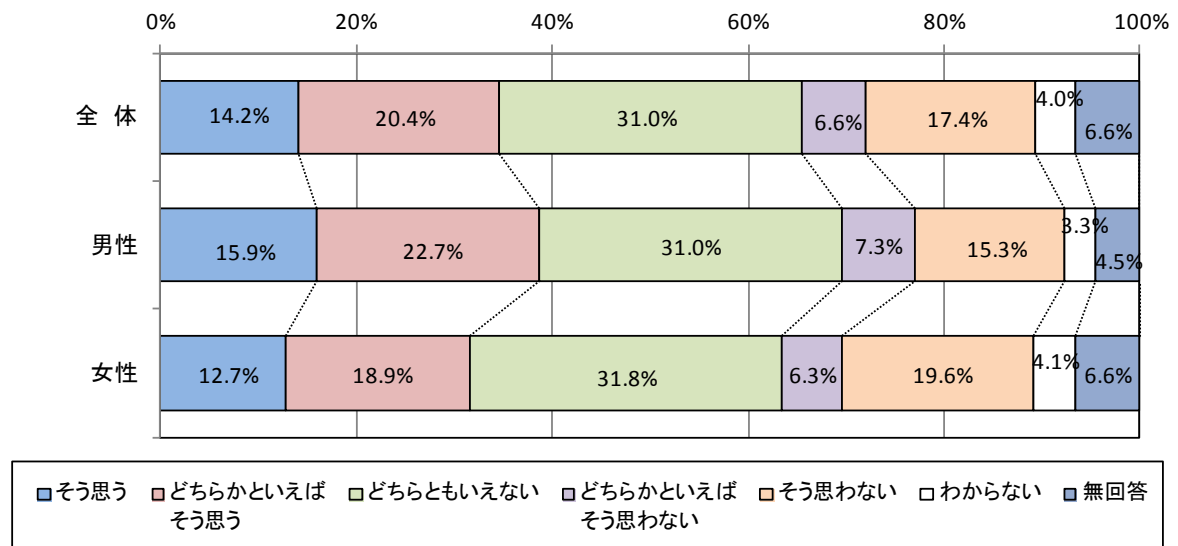
### 《女性は、結婚や出産をしても仕事を続ける方がよい》

「そう思う」(19.2%)「どちらかといえばそう思う」(22.0%)を合わせた割合が 41.2%で「どちらかといえばそう思わない」(4.5%)「そう思わない」(5.8%)を合わせた割合の10.3%を 30.9ポイント上回っています。



### 《女性は、出産を機に仕事をやめて家庭に入り、子どもが大きくなって再び仕事に就けばよい》

「そう思う」(14.2%)「どちらかといえばそう思う」(20.4%)を合わせた割合が 34.6%で「どちらかといえばそう思わない」(6.6%)「そう思わない」(17.4%)を合わせた割合の24.0%を 10.6ポイント上回っています。





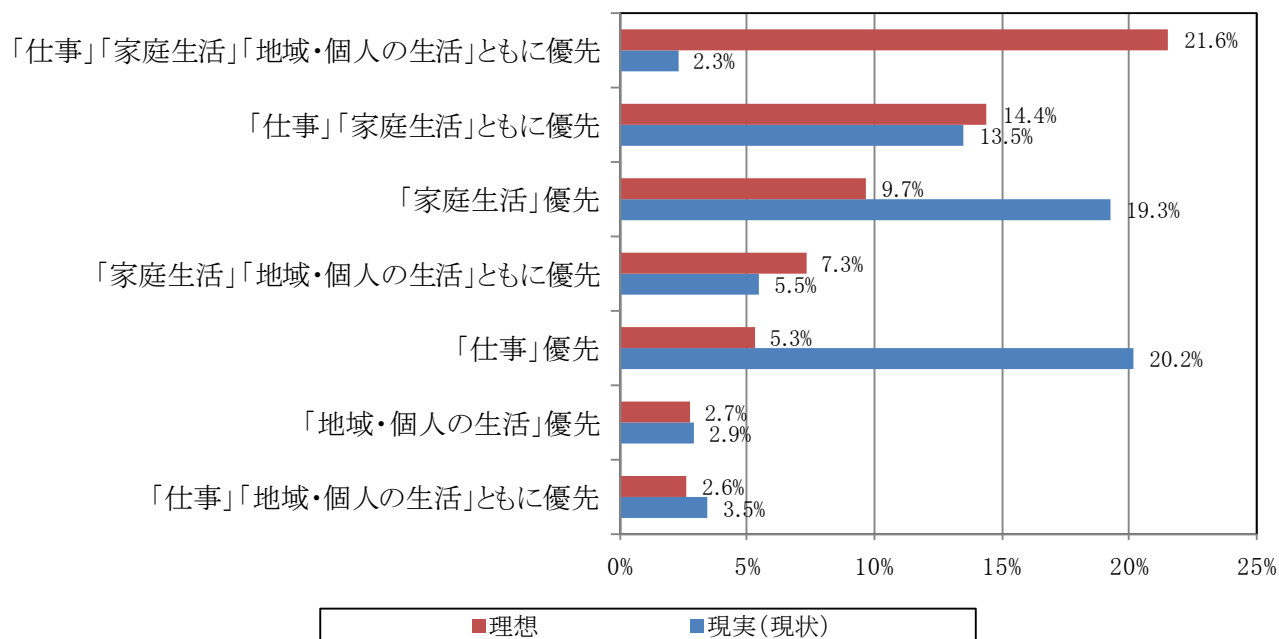
**【設問21】 あなたの生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、理想と現実に最も近いものはどれですか？**

理想に最も近いものとして「仕事と家庭生活と地域・個人の生活をともに優先している」を選択した人の割合(21.6%)が最も多く、次いで「仕事と家庭生活をともに優先している」(14.4%)「家庭生活を優先している」(9.7%)となっています。

また、現実(現状)に最も近いものとして「仕事を優先している」を選択した人の割合(20.2%)が最も多く、次いで「家庭生活を優先している」(19.3%)「仕事と家庭生活をともに優先している」(13.5%)となっています。

項目	割合	
	理想	現実
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先している	21.6%	2.3%
「仕事」「家庭生活」をともに優先している	14.4%	13.5%
「家庭生活」を優先している	9.7%	19.3%
「家庭生活」「地域・個人の生活」をともに優先している	7.3%	5.5%
「仕事」を優先している	5.3%	20.2%
「地域・個人の生活」を優先している	2.7%	2.9%
「仕事」「地域・個人の生活」をともに優先している	2.6%	3.5%

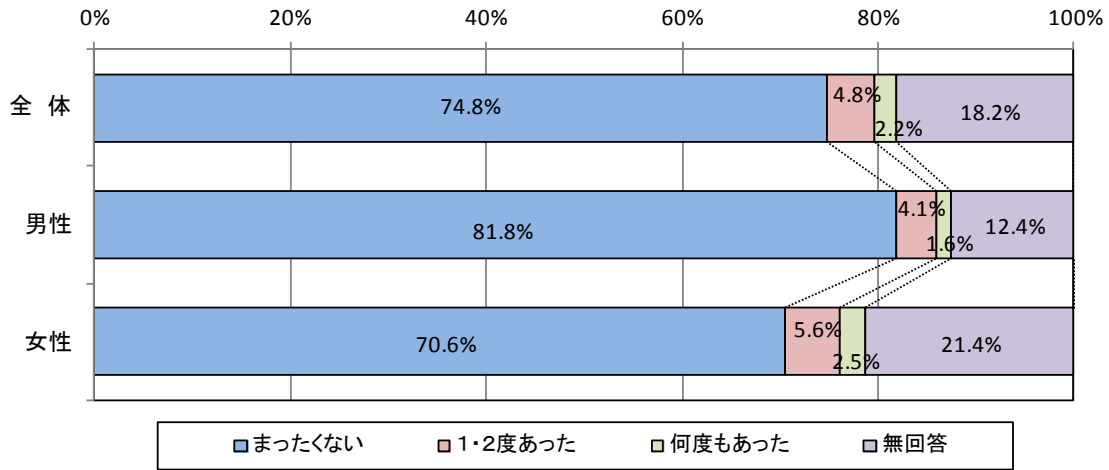
※割合は、各項目を選択した人数を回答者数で除したものです。



**【設問22】過去5年以内に、あなたの配偶者・交際相手相手から次のようなことをされたことがありますか？**

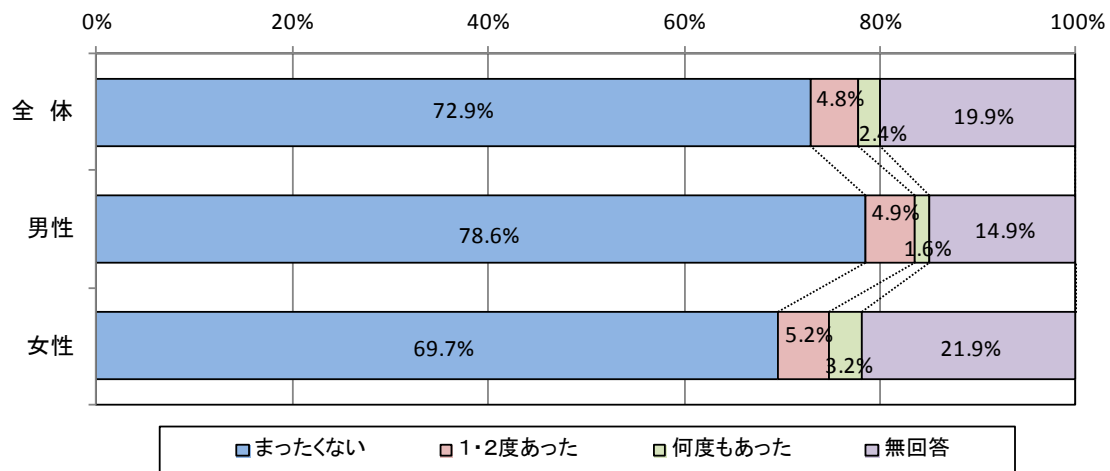
《殴る・蹴る・物を投げつける・突き飛ばすなどの身体に対する暴力を受けた》

全体では「まったくない」を選択した人の割合は 74.8% 「1・2度あった」は 4.8% 「何度もあった」は 2.2% でした。



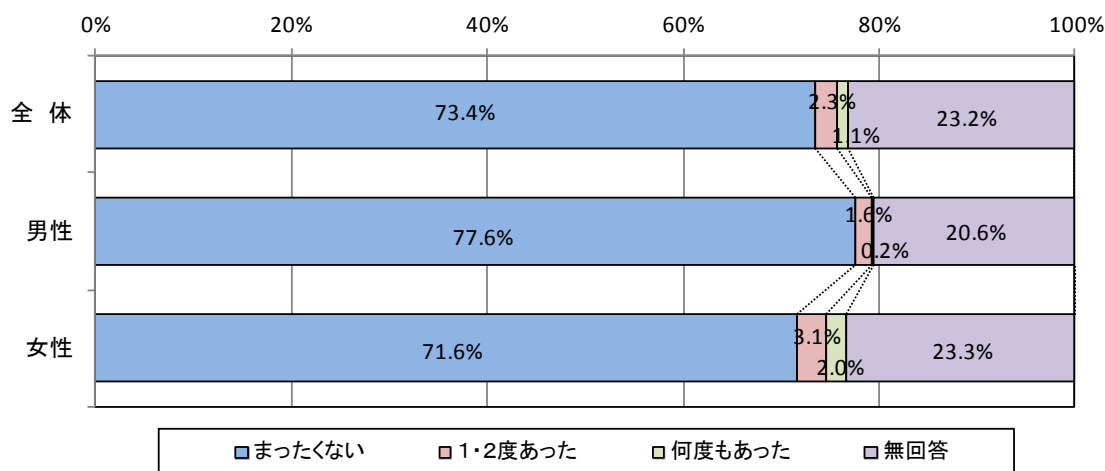
《人格を否定するような暴言・交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせ・自分自身もしくは家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた》

全体では「まったくない」を選択した人の割合は 72.9% 「1・2度あった」は 4.8% 「何度もあった」は 2.4% でした。



《避妊に協力しなかったり、嫌がっているのに性的な行為を強要されたりした》

全体では「まったくない」を選択した人の割合は 73.4% 「1・2度あった」は 2.3% 「何度もあった」は 1.1%でした。



【設問23】 男女共同参画社会の実現に向けて、市にどのようなことを期待しますか？

「男女が共に働きやすい就業環境の整備」を選択した人の割合(50.0%)が最も多く、次いで「男性、女性のどちらか一方に不利な社会通念、慣習の見直し」(21.2%) 「男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供」(15.4%)となっています。

項目	割合
男女が共に働きやすい就業環境の整備	50.0%
男性、女性のどちらか一方に不利な社会通念、慣習の見直し	21.2%
男女共同参画に関する幅広い情報や資料等の収集、提供	15.4%
男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実	15.3%
女性のための相談窓口の充実	11.0%
男女共同参画に関する講演会、講座等の企画、開催	9.0%
生涯学習活動やボランティア活動での男女共同参画	8.9%
配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実	6.6%
審議会など政策や方針を決定する場への女性の積極的登用	6.0%
男性のための相談窓口の充実	2.6%
性と生殖に関する健康支援	1.8%
その他	1.9%

※複数選択可能で、割合は各項目の選択者数を対象者数で除したものです。